

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和7年12月23日時点

	開催日時	開催形式（場所）	名称
1	1月8日(木) 13:00～15:30	オンライン開催	公開シンポジウム「人口10万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」
2	1月9日(金) 13:00～17:35	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」
3	1月14日(水) 13:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「第19回情報学シンポジウムー量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望ー」
4	1月16日(金) 13:30～17:30	オンライン開催	公開シンポジウム「One HealthからSFTS（重症熱性血小板減少症候群）を深掘り」
5	1月19日(月) 10:00～17:00	ハイブリッド (日本学術会議講堂)	公開シンポジウム「原子力総合シンポジウム2025」
6	1月28日(水) 14:00～17:00	ハイブリッド (筑波大学)	公開シンポジウム「知の創造を支える人財とは何か？～AI for Scienceと研究基盤に焦点を当てて～」
7	1月31日(土) 13:30～17:40	東京大学	公開シンポジウム「マテリアル融合：物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略」

※諸般の事情により、内容等に変更が生じる可能性がありますので、学術フォーラム・公開シンポジウム等の参加前には日本学術会議ホームページを御確認ください。



人口10万人地方自治体 における第一次産業の 多様な貢献

オンライン開催

令和8年 1 / 8 (木)

13:00～15:20

事前登録制 (先着100名)

大都市圏を国際競争力維持のために一層発展させると同時に、地方都市を「産業の場」「食料供給（農業）の場」「居住の場」として機能させ、国全体として分散型社会を構築することは、わが国の本質的な課題である。地方都市が有する機能には農業を中心とした一次産業が大きく貢献していることから、人口減少下においても効率的な食料生産を可能にする営農技術の確立、気象災害の激甚化に影響を受けにくい食料生産基盤の整備、地域資源を活用する自立分散型の農村の構築および土地利用の最適化などに向けた取り組みが今後益々重要になる。

本シンポジウムは、地域総合農学の視点から、人口10万人規模の地方自治体の第一次産業の多様な貢献について紹介するとともに現場での課題などを取り上げ、持続可能な国土の未来を考える機会として開催する。

次 第

司会進行：弓削 こずえ（日本学術会議連携会員、佐賀大学農学部 教授）

1 開会挨拶と趣旨説明 13:00～13:20

「人口10万人地方自治体における第一次産業の多様な貢献」とは
愛媛大学学長 仁科 弘重（日本学術会議連携会員）

2 講 演 13:20～14:35

地方都市周辺における農の保全に向けた土地利用制度・農地制度の課題

武山 絵美（日本学術会議連携会員、京都大学大学院地球環境学堂／農学研究科 教授）
弓削 こずえ（日本学術会議連携会員、佐賀大学農学部 教授）

農が都市にもたらす生態系サービス

大黒 俊哉（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

地方都市周辺での効率的な農業を目指す農環境センシング技術

本間 香貴（日本学術会議連携会員、東北大学大学院農学研究科 教授）

3 コメント／質疑応答 14:35～15:00

コメンテーター 荊木 康臣

（日本学術会議連携会員、山口大学大学院創成科学研究科 教授）

コメンテーター 小田切 徳美

（日本学術会議連携会員、明治大学農学部 教授）

4 閉会挨拶 15:10～

後藤 英司（日本学術会議第二部会員、

千葉大学大学院園芸学研究院 教授）

参加申込方法

参加を希望される方は、
下記URLまたはQRコード
より事前申し込みをお
願いします。



申込締切 令和8年1月5日(月)

<https://forms.gle/SNfFqEKR2eeGjuuU7>
chiiki.sg.symposium2025@gmail.com

↑お問い合わせはこちらまで

ワンヘルスの実現に向けた 生命科学研究の推進

日時 2026年1月9日 金 13:00 ~ 17:35

場所 日本学術会議講堂 ハイブリッド開催
東京都港区六本木7-22-34

開催概要

<https://www.scj.go.jp/ja/event/2026/394-s-0109.html>



参加申し込み

<https://forms.gle/X5Stqdzjqvzpgij8>



参加費
無料

参加申し込み期限
2026年1月8日(木) 17:00

プログラム

13:00 開会の辞・挨拶
岡村 康司 日本学術会議第二部会員／大阪大学大学院医学系研究科・教授、日本生理学会

高橋 雅英 一般社団法人日本医学会連合副会長(基礎部会)／藤田医科大学研究統括監理部・特命教授

第1セッション 「ホメオスタシス」

■第1部総司会
赤羽 悟美 日本学術会議連携会員／東邦大学医学部・教授、日本薬理学会、日本生理学会

13:05 ワンヘルスの現状と課題 — 国内外の動向と今後の展望

諫田 泰成 国立医薬品食品衛生研究所・薬理部部長、日本薬理学会、日本毒性学会

13:30 地球沸騰化時代の体温調節メカニズムの研究

中村 和弘 名古屋大学大学院医学系研究科 総合医学専攻統合生理学・教授、日本生理学会

13:55 ワンヘルスの視点が求められる耐性菌対策

舘田 一博 東邦大学医学部医学科・教授、日本細菌学会、日本感染症学会

14:20~14:30 休憩(10分)

第2セッション 「エクスポゾーム」

■第2部総司会
西田 基宏 日本学術会議連携会員(特任)／九州大学大学院薬学研究院・教授、日本薬理学会、日本生理学会、日本毒性学会

14:30 気候変動がもたらす健康影響:ワンヘルスの視点から

橋爪 真弘 東京大学大学院医学系研究科・長崎大学大学院熱帯医学グローバルヘルス研究科・教授、日本公衆衛生学会

14:55 新興化学物質と子どもの健康:エクスポゾームへの挑戦

池田 敦子 北海道大学大学院保健科学研究院・教授、日本衛生学会

15:20 動物の化学物質汚染と感受性

石塚 真由美 日本学術会議連携会員／北海道大学大学院獣医学研究員・教授、日本毒性学会



15:45~15:55 休憩(10分)

第3セッション 「センシング」と「デジタル」

■第3部総司会
日比野 浩 日本学術会議連携会員／大阪大学大学院医学系研究科・教授、日本生理学会、日本生体医工学学会

15:55 慢性ストレスによる副腎皮質リモデリングと破綻病態

小川 佳宏 九州大学大学院医学研究院病態制御内科学・教授、日本内分泌学会

16:20 植込み型ブレインマシンインターフェースによるワンヘルス実現にむけて

平田 雅之 大阪大学大学院医学系研究科脳機能診断再建学共同研究講座・特任教授、日本生体医工学学会

16:45 未病医科学とその数理基盤

合原 一幸 東京大学特別教授／東京大学国際高等研究所 ニューロインテリジェンス国際研究機構・エグゼクティブディレクター、日本応用数理学会

17:10 総合討論

■指定討論者
高橋 倫子 日本学術会議連携会員／北里大学医学部・教授、日本生理学会、日本内分泌学会

横山 詩子 日本学術会議連携会員／東京医科大学・教授、日本生理学会

■結語
赤羽 悟美 日本学術会議連携会員／東邦大学医学部・教授

17:30 閉会の辞

金井 好克 日本学術会議第二部会員／大阪大学ヒューマン・メタボース疾患研究拠点・特任教授、日本薬理学会



日本学術会議
SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本医学会連合TEAM事業「ワンヘルスの実現に向けた生命科学研究の推進」

参画学会: 日本解剖学会、日本生理学会、日本薬理学会、日本細菌学会、日本衛生学会、日本公衆衛生学会、日本感染症学会、日本内分泌学会、日本生体医工学学会、日本毒性学会、日本数理生物学会
後 援: 日本医学会連合

第19回情報学シンポジウム

量子未来社会の 健全な発展へ向けた課題と展望

1月14日(水) 13:00-17:10

会場：日本学術会議講堂
+オンライン配信
参加無料・要参加登録

世界的な量子技術の進展の陰で、日本の競争力低下と人材不足が懸念されています。この課題に対し、日本学術会議は「健全な発展」に向けた新たな提言を公表しました。本シンポジウムでは、提言が示す「政策立案」と「構造改革」の二つの視点から、産官学が連携して今なすべき具体的戦略を議論します。

プログラム

司会：佐古 和恵（日本学術会議第三部会員、早稲田大学教授）

13:00 開会挨拶

下條 真司（日本学術会議第三部会員、情報学委員会委員長、青森大学ソフトウェア情報学部教授）

第一部 情報技術に関する政策

13:10 「情報科学技術関連の政策動向等について（仮）」

阿部 陽一（文部科学省研究振興局参事官（情報担当））

第二部 量子情報技術の提言に向けて

13:30 日本学術会議提言「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望」について（仮）

根本 香絵（日本学術会議連携会員・沖縄大学院大学教授）

14:00 基調講演（ビデオ）

伊藤 公平（総合科学技術・イノベーション会議議員・慶應義塾大学）

14:10 基調講演（ビデオ）

村尾 美緒（東京大学 理学系研究科 物理学専攻 物理学科）

14:20 基調講演「量子未来社会の創造へ向けた東芝の取り組みー基礎研究から社会実装へー」

佐田 豊（株式会社東芝 上席常務執行役員最高技術責任者）

15:00 基調講演

益 一哉（産業技術総合研究所 量子・AI融合技術ビジネス開発グローバル研究センター長）

15:30 パネルディスカッション「量子未来社会の健全な発展へ向けた課題と展望」

（司会&ファシリテータ）

田淵 敬一（文部科学省学術振興局 量子研究推進室長）

大野 誠司（総務省 国際戦略局 技術政策課 研究推進室 室長）

16:30 講演

企業と大学の教育連携（仮）

小野寺 民也（理化学研究所 計算科学研究センター量子HPC連携プラットフォーム部門副部門長）

Moonshotのその先へ向けて（仮）

北川 勝浩（MoonshotPD・大阪大学）

量子技術の発展と研究コミュニティ（仮）

永山翔太（量子インターネットタスクフォース・慶應義塾大学）

17:00 閉会挨拶

黒橋 禎夫（日本学術会議第三部会員、国立情報学研究所所長）

参加登録はこちら



主催 日本学術会議情報学委員会

共催 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立情報学研究所

後援（予定） 一般社団法人情報処理学会、一般社団法人電子情報通信学会、一般社団法人映像情報メディア学会、一般社団法人大学ICT推進協議会

One Healthから

SFTS (重症熱性血小板減少症候群) を深掘り

日時: 令和8年1月16日 (金) 13:30 ~ 17:30

場所: オンライン開催



2026

1/16

13:30-17:30

見えない脅威がすぐそばに
― マダニ感染症 SFTS の真実 ―



登録はこちらから

13:30 開会の挨拶 堀 正敏 (日本学術会議第二部会員、東京大学・農 教授)

司会 高井 伸二 (日本学術会議連携会員、北里大学 名誉教授)

水谷 哲也 (日本学術会議連携会員、東京農工大学・農 教授)

石塚 真由美 (日本学術会議連携会員、北海道大学・獣 教授)

1. ダニ媒介感染症 - 病原体 (ウイルス・細菌・原虫) を運搬するダニ -

13:35 「マダニの科学」 中尾 亮 (北海道大学・獣 准教授)

13:50 「ダニ媒介感染症」 松野 啓太 (北海道大学・人獣 准教授)

2. ヒトのSFTSウイルス感染

14:05 「日本におけるSFTSの発見とその病態」 鈴木 忠樹 (JIHS国立感染症研究所 感染病理部長)

14:20 「SFTSの臨床的特徴と疫学」 西篠 政幸 (札幌市保健福祉局 医務・保健衛生担当局長)

14:35 「治療薬開発の現状」 谷 英樹 (富山県衛生研究所 ウイルス部部长)

14:50 「ワクチン開発の現状」 海老原 秀喜 (JIHS国立感染症研究所 ウイルス第一部部长)

3. 野生動物のSFTSウイルス感染

15:05 「野生動物の増加と移動に伴うダニの生息域の拡大」 土井 寛大 (森林総合研究所 主任研究員)

15:20 「SFTS媒介マダニの生息域は何故拡大するのか？」 高野 愛 (山口大学 教授)

15:35 「SFTSの抗体調査: 忍び寄るウイルスの浸透度を知る」 前田 健 (JIHS国立感染症研究所 獣医科学部長)

15:50 「病原体保有ダニの減少に向けて」 横山 直明 (帯広畜産大学 教授)

4. 伴侶動物のSFTSウイルス感染

16:15 「ネコの病態はヒトよりも重症」 松嶋 彩 (日本大学・生物資源科学部 教授)

16:30 「ネコとイヌへの実験感染からわかったこと」 朴ウンシル (JIHS国立感染症研究所 獣医科学部 主任研究員)

16:45 「動物病院の対応 応召義務とリスク回避策」 中川 清志 (東京都獣医師会 副会長)

5. 総合討論

17:00 講演者と参加者との質疑応答

座長: 岡林 環樹 (宮崎大学 教授) / 前田 健 (JIHS国立感染症研究所 獣医科学部長)

17:30 閉会の挨拶 野田 岳志 (日本学術会議第二部会員、京都大学医生物学研究所 教授)

原子力総合シンポジウム2025

主 催 日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会
共催・協賛・後援 44学協会

日 時 2026年1月19日（月） 10:00～17:00
場 所 日本学術会議講堂およびオンライン

プログラム

開会挨拶 関村直人（東京大学）

ALPS処理水の海洋放出の影響評価と課題（分科会活動報告）

司会 小野恭子（産業技術総合研究所）
「見解（案）について」 森口祐一（東京大学） 津旨大輔（筑波大学）

総合討論 コーディネータ：森口祐一

コメンテータ：鈴木達治郎（長崎大学） 一ノ瀬正樹（東京大学） 中西友子（東京大学）
飯島和毅（日本原子力研究開発機構）

原子力分野の人材基盤と育成について

招待講演1

「原子力産業における人材確保・育成の取り組み（仮）」
「日本原子力学会およびANECにおける原子力人材育成」

司会：岩城智香子（（株）東芝）
増井秀企（日本原子力産業協会）
小崎完（北海道大学）

招待講演2

「世界の中の日本の原子力人材育成」
「原子力規制における人材育成（仮）」

司会：越塚誠一（東京大学）
上坂充（原子力委員会）
山中伸介（原子力規制委員会）

特別講演

「OECD/NEAにおける人材育成に関わる活動（仮）」

司会：関村直人
William D. Magwood, IV (OECD/NEA)

総合討論 コーディネータ：関村直人

パネリスト：増井秀企（日本原子力産業協会） 小崎完（北海道大学） 上坂充（原子力委員会）
山中伸介（原子力規制委員会） 室谷展寛（OECD/NEA） 足立文緒（UNIDO東京事務所）

閉会挨拶 越塚誠一

参加申込み・問合せ先
一般社団法人日本原子力学会 事務局
E-mail: symposium@aesj.or.jp
TEL 03-3508-1261



公開シンポジウム

「知の創造を支える人財とは何か？～AI for Science と研究基盤に焦点を当てて～」

開催日時：令和8年（2026年）1月28日（水）14：00～17：00

開催地：筑波大学・大学会館国際会議室（茨城県つくば市天王台1丁目1-1）
（オンラインとのハイブリッド開催）

対象：どなたでも参加いただけます

開催趣旨：

知の継承・創造・活用を通じて、世界の知的フロンティアを牽引することが期待される我が国において、学術の持続的な発展を支える研究者、技術職員、事務職員、及びURA（ユニバーシティ・リサーチ・アドミニストレーター）といった多様な研究人財（「人は財（たから）である」との意味を込めて、タイトル及び本開催趣旨では「人材」ではなく「人財」と表記する）は、極めて重要な存在である。

しかし、博士課程への進学者数の減少や、学術分野への就職機会の限定などにより、これらの人財の確保が年々困難になっており、我が国の研究基盤にとって深刻な課題となっている。とりわけ近年、急速な技術革新と社会的ニーズの高まりを背景として、「AI for Science」や「特定先端大型研究施設」の分野における研究人財への需要が顕著に増している。

こうした状況に鑑み、本シンポジウムでは、これからの学術を支える研究人財に求められる資質・能力とは何か、また、それらの研究人財をいかにして確保し、体系的に育成していくべきかについて、実践的な議論を行う。

本シンポジウムは、日本学術会議若手アカデミーに加え、一般社団法人研究基盤協議会と文部科学省の各立場より登壇者を迎え、アカデミア、実務、政策という異なる視点から課題を共有し、次世代の研究人財育成に向けた具体的かつ建設的な提言を行うことを目的とする。また、将来の学術を担う大学院生（修士課程・博士課程）や若手研究者の積極的な参加を歓迎し、彼らがキャリア形成を考える上での視座やヒントを得る機会としたい。

次第：

◇司会

山田 知沙（一般社団法人研究基盤協議会技術職員・コンソーシアムコーディネーター／山口大学総合技術部技術専門職員）

14:00 開会挨拶

小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学大学大学院工学研究科准教授）

- 14:10 活動紹介
小野 悠（日本学術会議連携会員／若手アカデミー代表／豊橋技術科学
大学大学院工学研究科准教授）
江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大
学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））
未定（文部科学省科学技術「次の一手」チーム）
- 14:30 パネルディスカッション
◇ファシリテーター
小川 剛伸（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う
人材育成分科会委員長／京都大学大学院農学研究科助教）
◇パネリスト
杉本 舞（日本学術会議連携会員／若手アカデミー学術の未来を担う人
材育成分科会委員／関西大学社会学部教授）
川口 慎介（日本学術会議連携会員／若手アカデミーワーク・ライフ・
バランス分科会委員長／国立研究開発法人海洋研究開発機
構上席研究員）
未定（一般社団法人研究基盤協議会）
未定（文部科学省科学技術「次の一手」チーム）
- 16:25 質疑応答
江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大
学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））
- 16:40 総括・閉会挨拶
江端 新吾（一般社団法人研究基盤協議会代表理事・会長／東京科学大
学戦略本部教授・理事特別補佐（総合戦略担当））

主 催：日本学術会議若手アカデミー学術の未来を担う人材育成分科会、
一般社団法人研究基盤協議会

公開シンポジウム

「マテリアル融合：物質・エネルギー・情報技術融合による新たな元素戦略」

1. 主 催：日本学術会議化学委員会無機化学分科会
2. 共 催：なし（予定）
3. 後 援：日本化学会（予定）
4. 日 時：令和8年（2026年）1月31日（土）13:30～17:40
5. 場 所：東京大学化学講堂（東京都文京区本郷7丁目3-1 化学本館5階）
6. 一般参加の可否：可
可の場合は、一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：（該当のある場合）
開催予定あり。

8. 開催趣旨：

私たちの社会は、あらゆる「元素」に支えられている。スマートフォンのディスプレイや医薬品、電気自動車の電池、再生可能エネルギーの装置——それらの中では、鉄や炭素だけではなく、リチウム、ネオジム、ガリウムなど多様な元素が活躍している。こうした「全元素」を有効に活用し、新しい物質や機能を生み出すことが、持続可能な社会の実現に欠かせない。

日本は資源こそ限られているが、マテリアル(ナノテク・物質・化学・材料)の分野では世界をリードする研究力を有している。その強みを生かし、限られた資源を最大限有効に使う学問的・技術的基盤を築くことを目指して、日本学術会議は2023年に「元素戦略2.0」を発出した。この提言では、元素の融合的利用や循環を通じた新しい研究基盤の構築が示されている。

その後わずか数年の間に、人工知能（AI）やロボティクス、機械学習を活用した研究手法が急速に進展した。AIが分子や材料の性質を予測し、ロボットが自動で実験を行い、研究者がその結果を解析して次の発見へとつなぐ——こうした「人とAIが協働する科学」が現実のものとなりつつある。世界ではすでに数百億円規模の投資が進み、AI駆動型の材料開発競争が激しくなっている。

このような時代に、日本が培ってきたマテリアルの知を、AI・データ・ロボット技術と融合さ、「全元素を活用した次世代のマテリアル創製環境」を構築することが急務である。それは単に新物質を生み出すだけでなく、人の感性や経験をデジタル化して学術の発展に活かす、まったく新しい研究のあり方を切り

拓くものである。このあり方をここではマテリアル融合と呼ぶ。

本シンポジウムでは、こうした理念のもとに、

- ・ AI やロボットが変える研究とものづくりの最前線
- ・ 全元素の活用が拓く新しいエネルギー・資源循環社会
- ・ 人と機械が協働する研究開発の未来像
- ・ 産業界における機械学習によるものづくりの現状と今後

をテーマに、産官学界の第一線で活躍する講演者による発表とパネル討論を行う。文部科学省研究振興局長を招聘し、政府のマテリアル戦略と AI for Science に関わる構想や期待をご教授頂く予定である。

パネル討論では、異なる分野の研究者や産業界のリーダーが一堂に会し、「マテリアル融合」が生み出す新たな科学と社会の形について、自由闊達に意見を交わす。学术界、産業界、政策関係者、そして市民が未来をともに考えるこの場が、次世代の「元素戦略」へとつながる出発点となることを目指す。

なお、本シンポジウムは、無機化学分科会が中心となり発出予定の「見解」と同タイトルである。実際に学术界あるいは産業界で見解の趣旨に近い課題を見出して解決に取り組んでいる研究者から、直接意見を伺う機会となる。そうして、「元素戦略」の永続的な必要性を公に示す機会として位置付けられる。

なお、本企画は、「見解」の発出に向け、無機化学分科会が中心となり、有機化学分科会、材料化学・分析化学分科会、生体関連化学分科会、高分子化学分科会、IUPAC 分科会、IUCr 分科会、結晶学分科会ならびに物理化学・生物物理化学分科会および外部有識者を含む拡大役員会での連携によるものである。

9. 次 第 (案) :

13:30 開会の辞

13:40 趣旨説明

13:50 御挨拶

14:00

第1部 データサイエンスとマテリアル融合

15:15

第2部 機械学習やロボットの活用による元素戦略と未来材料

16:55 総合討論

17:35 閉会の辞